

事務局たより

安倍政権の暴走、断固阻止へ！

10.19国会前行動に6000人結集



戦争法強行可決から1年1カ月たった10月19日、国会議員会館前で開かれた総がかり行動に、千代田区労協のみなさんと一緒に参加しました。安倍政権は暴走をさらに一歩進め、自衛隊員を紛争下の南スーダンに派遣しようとしています。沖縄・高江では、機動隊員が抗議する住民に「ぼけ、土人」などと暴言を吐く始末です。そして開会中の臨時国会で焦点になってきたのがTPPです。一貫してTPPに反対している元農水相で弁護士の山田正彦さんは、「TPP批准は日本の独立の危機だ」と強調。総がかり行動実行委員会代表の高田健さん（写真左下）は「市民と野党4党の共闘を」と力強く訴えました。

新潟知事選で統一候補が勝利したように、安倍政権の暴走に対峙する国民の怒りは、間違いなく高まってきています。「負けてたまるか！」の思いをたぎらせ、引き続き行動に結集していきましょう。（福島 清）

**戦争法
廃止** **NO WAR**
**憲法改悪
STOP!**

「テロ等組織犯罪準備罪」策動を許すな！

「共謀罪」から「計画罪」へと弾圧強化

10月12日、衆議院第2議員会館で開かれた「『テロ等組織犯罪準備罪』に騙されるな！ 院内集会」に参加した。政府はこれまで、2003、2004、2005年の3回にわたって国会に提出されたが日弁連などの強い反対で廃案とされた「共謀罪」を「テロ等組織犯罪準備罪」と名称を変えて上程しようとしている。



足立昌勝・関東学院大名誉教授は、「政府案は、①重大な犯罪の実行を目的とする組織的犯罪集団の活動として、②組織により重大な犯罪を実行することを、③二人以上で計画し、④計画した犯罪の準備行為が行われると『組織犯罪準備罪』になる」という。

「共謀」が「計画」に代わっていることが大問題だ。「共謀」だと謀議をした証拠が必要になるが「計画」だとどこまでも広がってしまう。日弁連は、犯罪が実際に発生する前に関係者が犯罪を起こすことを合意した段階から処罰できるということは、日本の刑法体系を根本から覆ることになる。合意による犯罪については未遂前の段階で取り締まることができる処罰規定がすでに整備されているから不要だと指摘している。

安倍政権は、2013年に秘密保護法、2015年に集団的自衛権行使の戦争法、さらに今年5月には刑法を大改悪した。すでに監視カメラは日本国中いたるところに設置され、国民の日常生活は監視されている。

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の真相を広める活動に関わってみて、国民弾圧法規はいったん成立すると猛威を振るうことを痛感した。2020年東京五輪の前に、テロの恐怖を煽って成立させようとしている「計画罪」。上程される前に、この危険性を暴露して、上程させない行動が必要だ。日弁連をはじめ民進党も反対している。野党共闘の大切な課題だ。



この日、国会周辺は、国賓として来日中のベルギー国王夫妻歓迎の国旗が飾られ、華やいていたが、その陰で画策されている国民弾圧の「共謀罪」策動を許してはならない。

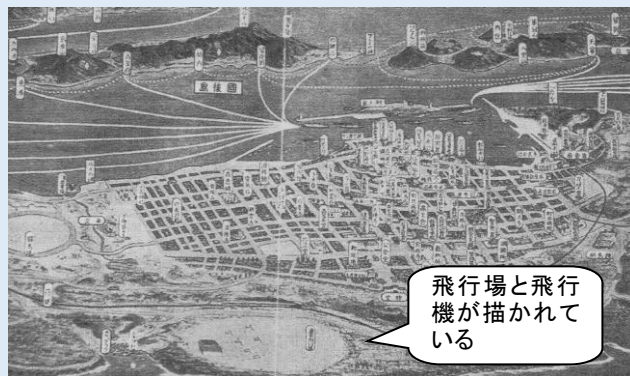
(福島 清)

<コラム> 冤罪忘れるな！ ③

冤秘・根室海軍飛行場

北海道根室町・JR根室駅南ワットラウスあたり

旧海軍が1932年11月に開設。当初は不時着用だったとされ、敗戦時の米軍資料では約853メートルと945メートルの2本の滑走路が交差する構造だった。1933年根室町発行の『根室要覧』や1934年根室日報社発行の絵葉書（下図）で紹介されるなど、その存在は広く知られ、1934年8月にはアメリカ海軍の士官（在東京大使館付武官）が公式見学している。



ところが、北大生・宮澤弘幸と同英語教師・レーン夫妻を検挙した特高警察は、軍飛行場の存在は軍事機密だったと決めつけ、裁判所（札幌地裁・大審院）も事実調べ抜きで「軍機保護法違反」と断じ、有罪とした。一審判決に示された罪状（軍事機密）は16項に及ぶが、いずれも被告の否認・反証に一切耳を貸さない決めつけであり、中でも根室の件がその典型で、国家権力による冤罪構造が如実に現れている。

◆ ◆ ◆
真相に迫る決定版（本会編）

『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』花伝社刊

第1部・冤罪の真相 第2部・冤罪事実の条条検証 資料編・判決全文 軍機保護法全文 年表 特別添付・重要事項索引

申し込みは本会事務局までFAX・メールで（1面上部題字横に掲載）。送料税込み2300円。後払い。

【事務局から】2013年1月に結成した「真相を広める会」の2016年8月までの活動をまとめて製本した「活動記録・資料集」を、国立国会図書館、札幌市資料館、札幌市文書館、北海道大学大学文書館に寄贈しました。「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の真相究明と北海道大学の謝罪と責任追及を求めるために、一人でも多くのみなさんに知っていただく一資料にして欲しいと考えています。この記録は「真相を広める会」のホームページに全文をPDFにして掲載してあります。

<http://miyazawa-lane.com/> ご活用ください。

(根岸正和、水久保文明)